



青年部だより

6月号

全文は
こちらから



TSL定期総会

4月12日(月) 砺波商工
会議所において、第3回砺波
商工会議所青年部 庄川町商
工会青年部連絡協議会定期総
会を開催しました。今年は新
型コロナウイルス感染症対策
を万全に行い、無事執行する
ことができました。定時総会
において、令和3年度共同代
表に砺波商工会議所青年部より
富田哲夫君、庄川町商工会青
年部より高田治生君が選任さ
れました。



記者 有澤健吾

今年度は4月にチューリ
ップ事業(アート製作)を実
施しており、9月には親睦
事業を計画しております。
今後も両会が力を合わせて
地域に貢献できるように努
めてまいります
(続きは全文へ)

TSLチューリップ事業

今年度のチューリップ事業は、2021となみチュ
リップフェア期間中に砺波市美術館前広場にて砺波商
工会議所青年部 庄川町商工会青年部連絡協議会(以下
TSL)で行いました。「未来へつなごう」と題し2つのア
ートを展示しました。「フラワーアート」はテーマ「つ
なぐ」のもと、出町中学校美術部にデザイン提供いただ
き、チューリップの花首で描きました。「モザイクア
ート」は市内の小学3・4年生約800名に将来の夢を描
いてもらい、その全てをモザイクアートとしてはめ込
み完成させました。隣にはミニハーバリウムタワーを
設置し、来場された多くの皆さまに見ていただく事が
できました。チューリップ事業を担当した菅野委員長
に成果をお聞きしました。事前準備から展示開催まで
の2日間は天候もよく嬉しい反面、生花で作るア
ートは気温が上がる事を嫌う事もあり、少しでもきれいな
ままで保ちたく、私たちは複雑な心境でした。
(続きは全文へ)



記者 吉田快

道は自分で切り拓く

【載】 連 青年部会員紹介!

どんな人なかが知つるの?
アンちゃん、ネエちゃん砺波で
こんな活躍しています!

佐藤 文寛(専務理事)

事業所 銜佐藤鉄工所

今日も大きなリュックサックを背負って青年部室にやって
来た。会議の前は時間があればお風呂に入ってくるという。
仕事に精を出し、休んでいるのも束の間、夜は会議が多い。
疲れていたっていつも物腰柔らかな話し方でみんなを包み
込んでくれる。佐藤丈寛、38歳。

異色の経歴の持ち主」と言っても良いだ
ろう。昭和58年1月29日、鉄工所の
三男として砺波市に生を享ける。地元の
高校を卒業後、親元を離れ大学へと進路
を進める。
(続きは全文へ)

記者 熊野皓太

地域文化との繋がり

天野 修(筆頭副会長)

事業所 銜天野餅店

銜天野餅店5代目にあたる、天野修さんは幼少期より、地
域の祭事の際などに自分のお店に注文が入り、商品を納品
し、そして祭事の主役にその商品がなるのを間近でみてきた
とインタビューに応じて頂きました。その際、幼いながら、
地域への繋がりが、祭事での主役に店の商品がなる、みんなが
喜んでくれる、その事に誇らしい気持ちになったそうです。
福光高校を卒業後単身、大阪のゲーム会社
に就職、苦しいながらも自分のやりたい仕
事に就いていましたが、ある時、生産者で
ある自分と消費者であるお客様との距離に
物足りなさを感じ、心機一転、製菓学校に
入学しました。
(続きは全文へ)

記者 清登達朗

昭和55年3月3日生まれ
好きな食べ物 漬物(浅漬け)
家族構成 父、母、妻
大阪にて一時期ゲーム制作会社に
勤める



青年部だより

6月号

TSL定期総会

4月12日(月) 砺波商工会議所において、第3回砺波商工会議所青年部 庄川町商工会青年部連絡協議会定期総会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策を万全に行い、無事執り行うことができました。定時総会において、令和3年度共同代表に砺波商工会議所青年部より富田哲夫君、庄川町商工会青年部より高田治生君が選任されました。

今年度は4月にチューリップ事業(アート製作)を実施しており、9月には親睦事業を計画しております。今後も両会が力を合わせて地域に貢献できるように努めてまいります。

富田共同代表に今年度のTSLについての意気込みを聞いてみました。「砺波商工会議所青年部と庄川町商工会青年部がもっとお互いのことを知ること、理解を深めることが大事だ。お互いの良いところを出し合って、楽しい事業が出来れば良いと思う。」
一年間を通して楽しく活動できるTSLを築いていきます。両共同代表の想いはひとつになり、令和3年度がスタートしました。

記者 有澤健吾



TSLチューリップ事業

今年度のチューリップ事業は、2021となみチューリップフェア期間中に砺波市美術館前広場にて砺波商工会議所青年部 庄川町商工会青年部連絡協議会(以下TSL)で行いました。

「未来へつなごう」と題し2つのアートを展示しました。「フラワーアート」はテーマ「つなぐ」のもと、出町中学校美術部にデザイン提供いただき、チューリップの花首で描きました。「モザイクアート」は市内の小学3・4年生約800名に将来の夢を描いてもらい、その全てをモザイクアートとしてはめ込み完成させました。隣にはミニハーバリウムタワーを設置し、来場された多くの皆さまに見ていただく事ができました。

チューリップ事業を担当した菅野委員長に成果をお聞きしました。

事前準備から展示開催までの期間は天候もよく嬉しい反面、生花で作るアートは気温が上がる事を嫌う事もあり、少しでもきれいなままで保ちたく、私たちは複雑な心境でした。しかしメンバーの毎朝の水やり等の甲斐もあり、当初の想定よりも長く展示することができました。

そして、モザイクアートでは小学生に将来の夢を画用紙に表現してもらいました。文字や絵など色々な表現や発想力があり見ていて楽しいものになりました。モザイクアートは初めての試みだったので幅1.5m×高さ1.8mの作品を作り上げるのは大変でした。

小・中学生、砺波市、TSLがつながり完成したこのアートは、これから大人へと成長する子供たちの将来の夢への懸け橋となればと思います。

記者 吉田快



連載 青年部会員紹介!

日々頑張っている、あこんこの
アンちゃん、ネエちゃん砺波で
こんな活躍しています!

「道は自分で切り拓く」

佐藤丈寛（専務理事）

事業所（有）佐藤鉄工所

今日も大きなリュックサックを背負って青年部室にやって来た。会議の前は時間があればお風呂に入ってくるという。仕事に精を出し、休んでいるのも束の間、夜は会議が多い。疲れていたっていつも物腰柔らかな話し方でみんなを包み込んでくれる。

佐藤丈寛、38歳。

「異色の経歴の持ち主」と言っても良いだろう。

昭和58年1月29日、鉄工所の三男として砺波市に生を享ける。地元の高校を卒業後、親元を離れ大学へと進路を進める。当時数学を専攻していた。大学を卒業した後、東京にて5年半、銀行のシステムの仕事に従事。「品川に住んどったんやよ、見た目と違うやろ」と少し恥ずかしそうに話してくれた。

27歳のときだった。父の「そろそろ仕事やめようかな」の言葉をきっかけに「砺波に帰ろう」と決断する。デスクワークから一転、フィジカルワークに。修業をしてきたわけではない。右も左もわからないままの入所だった。自分で決めた道、すべては「できる」と信じて。

帰ってきて間もない中、ステンレスの配管溶接に挑戦することにした。当時父親しか出来なかった技術だが、溶接する部品は大量にあった。見様見真似で打ち込む。あくまでも自分流だ。当時を懐かしむように手の動作で教えてくれたのが印象的だった。試行錯誤を繰り返し、これをなんとかできるようになった。

“道は自分で切り拓く”

この言葉が佐藤専務は似合う。

最後に、本人に尋ねた。鉄工所に戻るとき父から実際何か声をかけられたかと。

「別がない。報われたいと思わない。」

これからも自分で道を切り拓いていく。

記者 熊野皓太



メモ

趣味・奥様とデート

行きつけのお店・キャッツアイ

好きな女優・多部未華子

連載
青年部会員紹介!

どんな人ながか知つとるけ?
日々頑張っている、あこんこの
アンちゃん、ネエちゃん砺波で
こんな活躍しています!

「地域文化との繋がり」

天野 修 (筆頭副会長)

事業所 (有)天野餅店



(有)天野餅店5代目にあたる、天野修さんは幼少期より、地域の祭事の際などに自分のお店に注文が入り、商品を納品し、そして祭事の主役にその商品がなるのを間近でみてきたとインタビューに答えて頂きました。その際、幼いながら、地域への繋がり、祭事での主役に店の商品がなる、みんなが喜んでくれる、その事に誇らしい気持ちになったそうです。

福光高校を卒業後単身、大阪のゲーム会社に就職、苦しいながらも自分のやりたい仕事に就いていましたが、ある時、生産者である自分と消費者であるお客様との距離に物足りなさを感じ、心機一転、製菓学校に入学しました。地域コミュニティに携わることの誇りを幼少期から感じてきた天野修さんは無事、製菓学校を卒業し、現在(有)天野餅店の5代目になりました。今後の目標は地域文化の保存と新しい文化創造に貢献したいとの事です。今後益々地域との繋がりを大切にし、商売と文化の担い手としてご活躍されると筆者は感じました。

記者 清登達朗

メモ

出身学校

出町中↓福光高校↓京都大和学園製菓学校

好きな食べ物

漬物(浅漬け)

家族

父、母、妻

大阪にて一時期ゲーム制作会社に勤める